

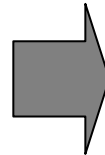
反映状況票

(単位:百万円)

所 管	事 案 名	調 査 区 分	取 り ま と め 財 務 局 名	21 年 度 予 算	22 年 度 政 府 案	増 減 額	反 映 額
防衛省	(52)陸上自衛隊における弾薬の処分事業	本省	-	281	136	145	151
事業の概要	陸上自衛隊が保有する火砲等の装備品が退役するにあたり、それまでに取得・備蓄していた当該装備品用の弾薬を後継の装備品では用いることができない場合があり、このような場合、これらの弾薬の廃棄処分を行っている。						

調査結果の概要及び今後の改善点・検討の方向性

- 1 全体的な計画立案の必要性
 - ・ 後退装備品とその弾薬については、装備品の退役を決定する際、装備品の退役と弾薬の使用のペースに関する全体的な計画立案を行う必要がある。
 - ・ 計画立案に当たり、演習当たりの弾薬の使用量を増やしていく等の工夫により、装備品の後退ペースと弾薬の保有量の減少のペースを可能な限り一致させる等、合理的なものとなる様に調整すべき。
- 2 弾薬の廃棄費用の見通しの算出のルール化
 - ・ 後継の装備品を選定する際には、引き続き、弾薬の転用の可能性も考慮に入れるべき。不要弾が発生する可能性がある場合には、弾薬の廃棄費用の見通しを必ず算出するように事務フローを整え、それを踏まえてより良い選定を行うべき。



反 映 の 内 容 等

- ・ 自衛隊の任務遂行に支障のない範囲で、弾薬の使用ペース及び在庫数量を勘案した全体的な取得及び使用計画を立案すべく検討中。
立案に当たっては、装備品の後退ペースに連動した防衛備蓄弾薬の減少ペースを努めて一致させるよう、合理的な計画とすべく検討中。
- ・ 後継の装備品選定に際しては、弾薬転用の可能性を考慮に入れ実施している。例えば、機動戦闘車や新戦車の開発に当たっては、現有の 74 式戦車や 90 式戦車で使用している 105 mm戦車砲弾や 120 mm戦車砲弾を使用できるように考慮している。

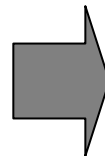
反映状況票

(単位：百万円)

所 管	事 案 名	調 査 区 分	取 り ま と め 財 務 局 名	21 年度予算	22 年度政府案	増 減 額	反映額
防衛省	(52) 陸上自衛隊における弾薬の処分事業	本省	-	281	136	145	151
事業の概要	陸上自衛隊が保有する火砲等の装備品が退役するにあたり、それまでに取得・備蓄していた当該装備品用の弾薬を後継の装備品では用いることができない場合があり、このような場合、これらの弾薬の廃棄処分を行っている。						

調査結果の概要及び今後の改善点・検討の方向性

- 弾薬の取得・保有の柔軟な対応
 - 退役する装備品に関する弾薬の取得や保有については、後継装備品の導入状況も考慮し、防衛力の維持に支障が生じない範囲内で、通常の装備品と比べて柔軟に対応すべき。また、203 mmりゅう弾等の今後の取得量について、再検討すべき。
- 教育訓練等への活用の検討
 - 多量の弾薬が使用し切れずに残ることが見込まれる場合には、教育訓練等において不要弾を有効に活用することも検討すべき。
- 弾薬の処分費用の低減
 - 廃棄する必要がある弾薬については、処分の一括契約・部位の分解・分解した部品他製品への再利用等の工夫を行い、処分費用の低減に努めるべき。



反 映 の 内 容 等

- 退役する装備品に関する弾薬の取得や保有については、後継装備品の導入状況も考慮し、防衛力の維持に支障が生じない範囲内で、通常の装備品と比べて柔軟に対応することとする。
 - 22年度の203 mmりゅう弾砲用のりゅう弾等の取得について検討を行い、当該りゅう弾の要求を中止。今後、装備品の後退ペースと教育訓練における弾薬の射耗について総合的に検討し、取得の可否について検討。
- 今後不要となる可能性のある弾薬の有効活用の方策について検討中。
- 22年度要求の70 mmロケット演習弾処分においては、活用できるロケットモータ部は再利用し、弾頭部のみを処分する事業を要求することで151百万円を低減。

(反映額： 151 百万円)